

## 令和7年度北上市市政座談会

### ～きたかみまちづくりトーク「WAになって話そう」～in 和賀

## 報告書

日 時 令和7年7月30日（火） 午後6時から8時まで

場 所 和賀地区交流センター

参加者 地域参加者：78名

市出席者：12名 ※事務局等7名

### グループトークテーマ

- ①：あなたが10年後に残したい、和賀の景観は何ですか
- ②：和賀の子どもたちに、どんな環境で育ってほしいですか
- ③：空き家を使用できたら、あなたなら何をしてみたいですか
- ④：雪の活用について、あなたならどんな方法を考えますか
- ⑤：あなたは年をとったら、どんな暮らしがしたいですか
- ⑥：あなたの知る和賀のケモノの現状について教えてください

---

### ①グループ

- ・10年後も残したい和賀の景観について、綱取断層や和賀の松島、祭りが行われる地域伝統の神社、水澤鉱山、仙人姥杉、多門院伊澤家、和賀三山、正岡子規の文学碑、鳥谷脇のサクラ等、多様な意見が出た。
- ・インターネット等で情報を得て、「和賀の松島」や「ミズバショウ」を観に海外から和賀地区に来る人もいたという話があり、きたかみ景観資産に和賀地区の良い景観を申請することで、より多くの人に和賀の景観を知ってもらい、関係人口を増やすことができるのではないかという意見があった。
- ・景観の維持管理や整備について、地域だけでは大変なので企業ボランティアと一緒にいるという情報や、人手や資金面に課題があるため、市からも支援してほしい、一緒に景観の活用を進めたい、という意見があった。

### ②グループ

- ・地域の環境について、自然が多くて良いところだが、子どもたちが安全に遊べる場所が無い、子どもが少なくなり、近所に一緒に遊べる友達がいない、クラブ活動も選択肢がない、などの意見が出された。併せて、子どもたちが安全に遊べる環境や施設、友達と一緒に体を動かして遊べるイベントがあれば良いという意見もあった。
- ・和賀西中学校で行われた座談会に参加した際、子どもたちは大人になったら和賀地区に残ることを難しいと感じているという話があった。子どもたちが帰ってきたいと思える地域、大人も子ども楽しめる場作りが課題だという意見が出た。
- ・対話を通して、大人の役割として、子どもたちが「ここに住んでよかった」と思えるような思い出や体験を作りたい、自然環境や地域の良さを守りつつ、子どもたちが安心して遊べる場所や、挑戦できる環境を整えていきたいという感想があった。

### ③-1グループ

- ・空き家の活用について、カフェ、セラピー動物と一緒に過ごせるような施設、子育て支援施設、シェアハウス、地域の居場所作りや交流の場、スポーツのための合宿所など、多様なアイデアが出された。
- ・空き家を活用するためには、地域ごとの特徴を生かした情報発信やより細分化された空き家バンク、空き家を放置しないための補助制度や仕組みづくりなどが必要である、という意見が出された。また、空き家になる前に、住んでいる人がどうするかを考えられるようなしくみや支援があれば良いという意見もあった。
- ・空き家の活用や需要について、情報発信を積極的に行えばニーズに合う人が見つかる可能性がある、需要と供給が合えば、和賀地区への移住者も増えるのではないか、という意見があった。

### ③-2グループ

- ・空き家の活用について、リフォームして自分好みの部屋をつくってみたい、民宿をやってみたい、喫茶店のような地域の集いの場、料理やサークル活動ができる施設、子ども食堂など、多様なアイデアが出された。活用するためには、最低限の改修も必要になってくるという話も出た。
- ・和賀地区では空き家が増えており、地域で活用を話し合いたい、喫緊の課題なので考え続けたいという意見があった。また、空き家を地域の集いの場とした際、そこまでの移動手段についても考えていかなければならないという話があった。
- ・空き家バンク制度について、市のホームページに掲載しており、実際に契約が進んでいる空き家もあることが紹介された。また、空き家の解体費用補助が、足りないと思うという意見があった。

### ④グループ

- ・雪の活用について、雪が多いことを強みにした関係人口を増やすためのイベント、雪を溶かして貯めておき、研究や他の用途に活用する、雪を保管し、イベントや芸能祭り、子どもたちの遊び場として使う、既存の石蔵や平温倉庫を使って保管し、雪のクーラーとして利用するなど、様々なアイデアが出された。
- ・冬場に大根や野菜を雪の中に埋めて保存する文化や、雪を使った昔からの遊びや体験を若い世代に伝えていきたいという意見もあった。地域の歴史や文化も雪の活用と合わせて発信していくことが大切だと思うという話もあった。
- ・和賀地区では雪に悩まされているが、雪を「楽しむもの」ととらえる視点も大切であり、自分たちが楽しむこと、子どもたちや観光客などに雪の魅力を伝えていきたいという意見もあった。

### ⑤-1グループ

- ・年をとってからの理想の暮らしについて、畑作業をしながら健康に暮らしたい、現状のまま地元で暮らしていきたい、地域と関わってほしい、仕事もしつつ、昼から友人とお酒を飲んだり趣味を楽しみたい、ホタルの保護に関心を持っているなど、それぞれの理想の暮らしを共有した。
- ・地域の人たちと支え合いながら暮らすことの大切さを実感している、地域での交流を大切にしたい、という意見が多く挙げられた。また、年齢とともに移動手段や健康への不安もあり、少しでも健康でいられるよう工夫しているという意見もあった。
- ・若い世代の意見を聞きたい、子どもの声が聞こえ続けるまちでほしいという意見もあり、少人数でも元気に暮らせる地域を目指して、世代を超えた交流や意見交換を大切にしていきたいという感想があった。

### ⑤-2グループ

- ・理想の暮らしについて、家に閉じこもらず外に出たい、周りから年寄りだと思われたいようにしたい、元気に働きたい、自分が夢中になれることをしたい、周りへ感謝できる人でありたい、家族と一緒に過ごしたいなど、それぞれの理想の暮らしを共有した。自分の暮らしだけでなく、地域で暮らすことも考えたいという話も出た。
- ・和賀地区で暮らす課題として、特に交通手段について多くの意見があった。公共交通の減少、タクシー利用の問題、運転できなくなってしまった時の生活への不安などが挙げられ、みんなの意見を聞いた参加者からは、助け合いタクシーなどを地域でやってみたいという意見も出た。
- ・和賀地区への移住や定住の促進について、若い人だけでなく、年配者もみんなで集まって交流できる場所があれば、住む人が増えるのではないかという意見もあった。

### ⑥-1グループ

- ・クマの出没の多さについて、孫の登下校に危険を感じて車で送迎している、人身被害があったから通報を必ずするようになった、出没が当たり前になり、散歩や畑作業中にも不安を感じているなどの意見があった。イノシシやタヌキ、シカなどによる農作物への被害の現状についても、多くの意見が出された。
- ・獣害対策について、草刈りや樹木の伐採を行って見通しを良くする、電気柵を設置するなどの方法が挙げられ、しくみづくりや補助金、関係団体への働きかけを求める声があった。また、クマの出没に限らず、緊急時の情報伝達体制や広報について、地域住民にきちんと伝わるような方法を考えてほしいという要望があった。
- ・クマの対応や、補助金等についての質問があり、市出席者からは相談先やクマの駆除についての現状、電気柵の補助金についての説明などがあった。

## ⑥-2 グループ

- ・クマの出没の多さについて、遭遇が怖くて外に出るのが戸惑われる、実際に目撃して恐怖を感じた、子どもたちの通学の安全を確保してほしいなどの話があった。イノシシによる農作物への被害の現状について、畑の被害が深刻である、電気柵での対応を検討しているがお金がかかるなどの意見が出された。
  - ・クマに遭遇した際の通報について、「細かいところまで聞かれるのではないかと懸念の声があり、市出席者からは「どこで見たか」「何時頃見たか」を伝えていただければ問題ないという回答があった。
  - ・クマやイノシシへの対策について、電気柵や果樹の伐採、クマ鈴、講習会への参加などの意見が共有され、本日の座談会で学んだことを忘れず、自分や地域のためにできることを考えたいという思いが参加者から語られた。
-

# グループトークの様子



和賀地区の皆さま

たくさんのご参加ありがとうございました